

標準臨床検査学

臨床検査総論

シリーズ監修：矢富 裕・横田浩充

編 集：伊藤機一・松尾収二

B5判, 160頁, 定価 3,150円(本体 3,000円, 税 150円)

出版社：医学書院 2013 発行

臨床検査総論は臨床検査の基本的な科目であり、尿などの体液検査における化学的検査と形態学検査が同時に学べる内容である。本書は臨床検査技術学として第3版まで発刊され、新しく「標準臨床検査学」のシリーズの第1版として「臨床検査総論」が発刊された。

編集は伊藤機一教授(故人)の後を継がれて、この分野での第一人者である松尾収二教授が担当されている。執筆者はそれぞれの検査分野における第一人者が分担執筆され、充実した内容になっている。

臨床検査総論は臨床検査技師を目指す学生が最初の専門科目として学ぶ教科書である。臨床検査の目的や意義、そして使命、さらに技師としての心構えなど、学生の学ぶべき柱といえる。また、医療の世界で将来勤務することになるための基礎的な知識である高い検査技術に基づく検査データの信頼性、患者との接し方や、医療事故防止、検査の経済効率性、そして倫理観の堅持など臨床検査技師としての必須の内容である。

本書は6章から構成されている。第1章：臨床検査技師の役割と使命、第2章：臨床検査における心構えと一般的注意事項、第3章：臨床検査が行われる場所、第4章：採血法、第5章：検体の取り扱い方、第6章：一般臨床検査である。

第1章では臨床検査が医療や保健そして福祉の分野で検査データが客観的な指標となり、いかに重要な分野であるかが述べられている。臨床検査技師教育の歴史を紹介するとともに、臨床検査の国際的動向に伴う新分野である検査法の標準化やチーム医療が紹介されている。第2章では臨床検査における医療人として仕事をする心構えと日常業務の一般的注意事項や心構えが述べられている。第4章と第5章は臨床検査を行う上で最も重要な採血法や検体の取り扱い方と検査データの変化が記載されている。最近では血液の患者採血を検査部の業務として行うことが多いことから、その採血行為の範囲や注意事項が記載されている。さらに第5章では各種体液の採取法で注意すべきこと、そして血液検体に関連する各検査データ変動因子や採血管の種類とその適用範囲などについて詳細に記載されている。

第6章では尿検査を中心に各種体液検査についての採取法や検査法、そして検査データの臨床的意義が記述されている。特に巻頭の挿絵は尿沈渣の顕微鏡写真が豊富に掲載され、学生にとって理解しやすい内容になっている。

本書は学生がはじめて専門的な教育を受ける学科でもあるため、多くの分かり易い写真や図、そして表が配置され、学ぶべき内容を容易に理解できる工夫がされている。特に尿沈査については病的に出現する細胞など図と共に形態学的な特徴や疾病との関連などについて詳細に書かれている。また、尿中に出現する結晶と観察の着眼点が図と説明で示され、初めて専門教育を受ける学生も理解できる内容になっている。

この新しい標準臨床検査学シリーズの本書は「臨床検査学教育」の担い手である私たちにとって、教育を行うための貴重なテキストである。

(大澤 進：千葉科学大学 危機管理学部 医療危機管理学科 教授)